

岐阜高専「マレーシア工科大バイオサイエンス・医療工学部准教授を招聘し講演会開催」

岐阜高専は、マレーシア工科大学との包括交流協定（平成24年7月締結）に基づき、岐阜高専専攻科生の海外インターンシップ派遣（平成25年7～8月、3週間3名）、マレーシア工科大学若手研究者の岐阜高専滞在（同10月～12月、3か月）、同大学院生受け入れ（同11月、2週間2名）などの交流を推進してきた。

今回、マレーシア工科大学バイオサイエンス・医療工学部カハール・ビン・オスマン准教授（Clinical Science 学科長）を客員教授として招聘し、平成25年12月11日には、ホストの山本高久准教授（機械工学科）の司会で、「バイオメカニクス・モデリングの新展開」と題して講演を行った。カハール准教授は、講演で、呼吸器内の空気流れ、循環器内の血液流れや物質移動が、術前、術中、術後でどう変わるかなど予測することによって、医療行為の効果予測や安全性増加にも、工学が今後大いに寄与できることを強調した。

主たる聴衆である専攻科生、機械工学科本科生らは感銘を受け、この方面の研究への意欲を示す質問も多くなされた。



中央：マレーシア工科大カハール・ビン・オスマン准教授，向かって左へ，同イシュクリザット・ビン・タイブ研究員，岐阜高専・和田清教授（国際交流室長），向かって右へ，岐阜高専・北田敏廣校長，同機械工学科・山本高久准教授